# 第1章 第57回日米学生会議概要

テーマ

活動概要

第57回日米学生会議参加者一覧

メディアへの掲載

## テーマ

## Exploring the Roles and Possibilities of the Japan-America Partnership

共に創る明日 ~戦後60年を今日振り返る~

第57回日米学生会議は、"Exploring the Roles and Possibilities of the Japan-America Partnership"「共に創る明日~戦後60年を今日振り返る~」をテーマとして掲げ、滋賀・京都、広島、沖縄、東京で開催される。歴史軸を念頭に、環境問題でも注目されつつある滋賀・京都で日本の根底にある精神や伝統に触れ、次に広島で、原爆の悲劇、戦後の復興や平和について考える。地上戦の舞台となった沖縄では、戦争が終わった現在も抱える基地問題を踏まえ、安全保障問題を中心として日米関係について議論を交わす。そして、会議の成果を情報の発信地である東京にて発表する。あらゆる議題について、日米双方の参加者と現地の人々の視点から考察し、率直に意見を発表すること、また、意見や経験の異なる者同士で学び合い、理解を深めることを目標とする。戦後60周年を迎えて、私たちはどのような世界に生きているのか。歴史を共に振り返り、その延長線上に生きる私たちの現在を認識し、未来を見つめなければならない。グローバリゼーション、地域主義、テロリズムや対テロ戦争、核問題、情報化社会など様々な要因によって世界情勢は日々めまぐるしく変化し、その中で日米関係のあるべき姿が改めて問われている。そのような今こそ、日本と米国という二大国家のパートナーとしての可能性を十分に模索しながら、現代における役割を認識するために討議する意義は非常に大きいのではなかろうか。

学生という立場には、限界があるかもしれない。しかし、私たちは学生だからこそ、肩書きにとらわれず、利害関係を超えた議論ができると信じている。日本各地の訪問、率直な意見交換、講師を招いた勉強会や講演会、フィールドトリップや文化交流を通じて、私たち自身について、そして私たちが創るべき未来について考ることを目的とする。

## 活動概要

## 事業内容

主催 後援

財団法人 国際教育振興会 外務省、文部科学省、米国大使館、日米文化センター

財団法人 国際ビジネスコミュニケーション協会

企画・運営期間

第57回日米学生会議実行委員会 2005年7月27日~8月23日

開催地参加者

滋賀・京都、広島、沖縄、東京 日本側・米国側 各38名(実行委員各7名を含む)

#### 会議運営

2004年夏に開催された第56回日米学生会議の最終開催地であるプリンストンにて、日本側参加者と米国側参加者の中から第57回日米学生会議実行委員が選出され、第57回日米学生会議実行委員会が発

足した。実行委員会は、第56回日米学生会議での経験を参考に、会議のテーマや開催地など会議の枠組みについて議論を重ね、基本方針を"Princeton Agreement"という宣言に明文化した。

#### 日本側のこれまでの実行委員会の歩み

第 57 回日米学生会議実行委員会発足
役職引き継ぎ、予算案作成、理念合宿
後援申請、ポスターや実施要綱、リーフレットの作成、HP 立ち上げ準備
HP 立ち上げ、広報活動、財務活動開始
OB会総会、広報活動、講演会、財務活動
参加者応募受付、本会議準備、広報活動
選考試験問題作成、選考合宿
第1次選考試験、第2次選考試験、選考合宿(参加者決定)
財務活動、本会議準備、OBとの懇談会
財務活動、本会議準備、春合宿の準備、春合宿
講演会、勉強会、防衛大学校訪問、本会議準備
講演会、勉強会、日本側直前合宿、本会議

## 本会議概要 -

## 分科会

日米両国の参加者は全員、各自の興味や関心のもとに8つの分科会のいずれかに所属し、レポート作成、プレゼンテーション、ディスカッション、フィールドトリップなどの活動を通して議論を重ねた。報告会では、会議のテーマに沿って各分科会ごとに命題を設定し、政策提言という形で意見を発表した

## 分科会テーマ

- 文化—伝統とポップ Culture: Tradition and Pop
- ・ ジェンダーとアイデンティティ Gender, Sexuality, and Identity
- ・ 社会変動と政策 Emerging Social Problems and Phenomena: Issues and Legislation
- ・ 安全保障と平和構築 International Politics
- · 地域主義 Regionalism
- ・ 世界市場経済と日米社会の再編成 Globalization and Economic Restructuring in Japan and the US
- ・ 科学技術と現代社会 Science and Technology: Social Responsibilities
- ・ グローバリゼーションの功罪 Social and Cultural Implications of Globalization

#### スペシャルトピック

スペシャルトピックは、論題が既に固定された分科会とは異なり、様々なトピックを参加者が興味に従って自由に設定し、自発的な意見交換、議論、交流を行うものである。人種問題やNGO、音楽や恋愛事情、また人権問題などを話すグループもあれば、「理想的な社会とは何か?」というような観念的な議論を交わすグループもあり、自主性に富んだ、活発な議論の場を持てた。

## 全体討論

分科会やスペシャルトピックがグループごとに異なる論題について議論をするのに対して、全体討論では参加者全員が一つのテーマについて話し合った。語学の壁や、それまでの活動を振り返って考えや意見を共有し、以降の活動をよりよくしていくために有意義な機会となった。

## 第 57 回日米学生会議参加者一覧

## 日本側実行委員-----

荒島	由也	慶應義塾大学	法学部政治学科	3年
伊東	孝哲	慶應義塾大学	総合政策学部	4年
ザン	リンダ	慶應義塾大学	別科日本語研修課程	1年
杉田	道子	国際基督教大学	教養学部国際関係学科	3年
出浦	寛子	慶應義塾大法学部	法律学科	3年
袴田	隆嗣	東京大学大学院	公共政策学教育部公共政策学専攻	修士1年
福田	愛奈	お茶の水女子大学	生活科学部人間生活学科	3年
三谷	佳孝	立命館大学	国際関係学部	4年

## 日本側参加者 ——————

浅岡 真依	津田塾大学	学芸学部英文学科	3年
伊藤 朋子	早稲田大学	国際教養学部	2年
伊藤 雅俊	早稲田大学	商学部	3年
井上 雅章	慶應義塾大学	理工学部システムデザイン工学科	4年
井上 裕太	慶應義塾大学	法学部政治学科	3年
加藤 康広	東京大学大学院	工学系研究科先端学際工学専攻	博士2年
唐澤 由佳	慶應義塾大学	経済学部	3年
木原 由貴	福井大学	教育地域科学部	4年
キム ビョンス	一橋大学	社会歴史研究科	修士1年
国松 永喜	明治大学	二部政治経済学部経済学科	3年
佐藤 愛	早稲田大学	国際教養学部	1年
佐藤 広大	国際基督教大学	教養学部 情報科学学科	4年
重原 由佳	国際基督教大学	教養学部社会科	2年
篠原 舞	東京女子大学	文理学部社会学科	1年
島村 明子	東京大学	教養学部文科一類	2年
張 文涵	慶應義塾大学	法学部法律学科	2年
津端 幸江	近畿大学	生物理工学部遺伝子工学科	3年
中里 広明	早稲田大学大学院	経済学研究科	修士1年
中島 朋子	慶應義塾大学	文学部人文社会学科	2年
生板 沙織	慶應義塾大学	総合政策学部	2年
錦 信吾	鳥取大学	医学部医学科	3年
沼田 雄二朗	慶應義塾大学	法学部政治学科	3年
波多野 綾子	東京大学	教養学部総合社会学科	3年
樋口 宏	立教大学	法学部国際比較法学科	4年
藤原 智生	鳥取大学	農学部生物資源環境学科	3年
ダラ プスピアルディニ	九州大学	21 世紀プログラム	2年
古川 啓之	東京大学大学院	公共政策学教育部公共政策学専攻	修士2年
前田 薫	慶應義塾大学	法学部政治学科	3年
森 賢子	青山学院大学	国際政治経済学部国際政治学科	4年
山内 拓磨	立命館大学大学院	国際関係研究科	修士1年
山田 裕一朗	同志社大学	経済学部経済学科	3年

## 第57回日米学生会議米国側参加者一

## **American Executive Committee (AEC)**

Mr. Hunter McDonald	Harvard University	East Asian Studies	Sophomore
Ms. Anna Franekova	Harvard University	Government	Senior
Mr. Lasantha Gunasekara	Cornell University	Neurobiology	Senior
Ms. Michelle Lee Jones	University of Chicago	History	Junior
Ms. Ashley Neeley	University of Maryland	Chinese/ Communication	Post Graduate
Ms. Elspeth Spransy	Eckerd College	Int'l Relations/Political Science	Senior
Ms. Tina Toal	Widener University	International Relations	Senior

## **American Delegation**

Mr. Francisco Arechiga	University of Chicago	Humanities	Junior
Mr. John Baldridge	Northeastern State University	Geography	Junior
Ms. Brenna Gannon	Drake University	International Business/Marketing	Junior
Mr. Michael Haubert	Sul Ross State University	Geology	1st Year
Ms Yui Hirohashi	Harvard University	Sociology	Junior
Mr. Ken-Cheng Hsiang	Washington and Lee University	Economics/East Asian Studies	Sophomore
Ms. Yoko Kamitani	George Washington University	International Affairs	Senior
Ms. Melissa King	Smith College	Anthropology	Sophomore
Mr. David Langstaff	Durham Technical Community Col	lege History/Economics	1st Year
Ms. Candice Laurman	University of California, Berkeley	Film Studies	Senior
Mr. Stanton Lawyer	Howard University	Political Science/History	Senior
Ms. Madison Levitan	Dickinson College	Undeclared	1st Year
Ms. Thea Lorentzen	Stanford University	Civil Engineering	Junior
Mr. Geoffrey Lorenz	Duke University	Political Science	Junior
Ms. Florence Maher	Earlham College	International Studies	Sophomore
Mr. Mike Miello	Duke University	Comparative Int'l Studies/French	Senior
Ms. Charlene Morales	Cornell University	Industrial and Labor	Junior
Ms. Rachel Olanoff	Tufts University	Biopsychology/Asian Studies	Sophomore
Ms. Sydnie Reed	Princeton University	Economics	Sophomore
Mr. Lane Rettig	University of California-Berkeley	Computer Science/Japanese	Senior
Mr. Paul Reynolds	Santa Fe Community College	History	Sophomore
Mr. Sheehan Scarborough	Harvard University	Government	Sophomore
Mr. Steven Schroeder	University of Puget Sound	Undeclared	1st Year
Mr. Benjamin Seligman	Cornell University	Biological Sciences	Sophomore
Mr. Derek Sheridan	University of Chicago	Anthropology	Sophomore
Mr. Alexander Soriano	University of Chicago	Mathematics	Senior
Mr. Paul Thornton	University of North Texas	International Studies	Senior
Mr. Loc Van	Cornell University	Biology/Business	Sophomore
Ms. Kelly Varsho	University of Wisconsin-Madison	History/Economics/East Asian Studies	/ Senior
Mr. Matthew Wright	University of Washington	Japan Studies	MA
Ms. Lina Yamashita	Oberlin College	Biology/History	1st Yea

## メディアへの掲載

#### テレビへの出演

NHK 広島 ニュース枠(放送済)

TBS 系 ニュース 23 (2005年12月放映予定)

#### 新聞への掲載

読売新聞(第57回日米学生会議実行委員長 杉田道子) 7月23日

7月29日 (第57回日米学生会議開会式) 京都新聞

(第57回日米学生会議環境プロジェクト) 7月31日 滋賀新聞

8月5日 毎日新聞 (第57回日米学生会議広島会議) 8月5日 中国新聞 (第57回日米学生会議広島会議)

(第57回日米学生会議沖縄レセプション) 8月9日 沖縄タイムス

(第57回日米学生会議沖縄レセプション) 8月9日 琉球新報

#### 開会式で抱負を述べるアシュリー・ニーリーさん(草津市・ 立命館大びわこ・くさつキャンパス)



決意を述べ 出したい」と

なって企画、運営している。 十三日まで、京都、広島、沖縄な る」がテーマ。学生たちは八月二 る明日~戦後六十年を今日振り返 で、日米の学生スタッフが中心に どを巡り、平和記念式典への参列、 た国際的な学生交流プログラム 五十七回目の今回は、「共に創 立草 命津 大の 米会議が 広島など歴訪 企業関係者を招いて討論する **開幕** 演があった。三十日には、 会の緒方四十郎副会長の基調講 しみにしていた」と話した。 ーさん(三三)も「この日をずっと楽 「環境プロジェクト」を予定し この後、元日銀理事で日米協

員長のアシュ リー・ニーリ た。米国側委 京都新聞、7月29日付

議」が二十八日、草津市の立命館 生活をしながら環境や平和などに 開き、学び話し合う「日米学生会 ついて勉強会やワークショップを 同会議は、一九三四年に発足し し・くさつキャンパスで開 が「一年間、 催し、会議の成果を発信する。 続き、日本側の実行委員長で国際 会の大井李理事長らのあいさつに 人が出席。主催する国際教育振開 米軍基地訪問、フォーラムなどを 基督教大三年の杉田道子さん(三0) 準備してきた成果を 日米の学生七十七

日米両国の環境問題への取り組みや考えを発表した「環境 プロジェクト」(立命館大びわこ・くさつキャンパス)

の国で発表に備え、環「活動を披霧した。 学39人、米国側27大学「けて同大学文京キャン みを盛り込んだ一日米 問題への身近な取り組 ヤンバスで開かれた。 が30日、草津市の立命 学生会議京都議定書 28度に保つなど、環境 エアコンの設定温度を 館大びわこ・くさつキ のメーン行事として、 「環境プロジェクト」 同会議は日本側17大と、地域環境保全に向 8月23日まで広島、宣言した。 
〇カード」の発行な 返る~」をテーマに

目標を書き込む「IS 福井大教育地城科学部 バスで続けられている | に議定書の項目を実践 4回生の木原由貴さん (22) が報告。各自の 方、日本側からは

らが集い、自分たちで 日本と米国の大学生 介。議論が科学的では 共和両党の見解を紹 が京都議定書に批准し 境に関する勉強会など 低減する18項目の行動 いる点を取り上げた。 なく、政治的に進んで 交流を深め、互いに得 を催してきた。 米国の学生は、 た経験を社会で生かし

**金第57回日米学生会議** できる社会貢献を考え 大学集い

向 玉

立命館大くさつ

来を考える始まり」と 定書を読み上げた学生 縮めくくった。 は「これが私たちの未 を挙げた。代表して議 歩くーなど環境負荷を ことをまとめた「京都 持参する▽水筒を持ち を使う▽自分のはしを 同会議は両国学生の 学生としてできる

滋賀新聞、7月30日付

縄などを訪問。その即

返る~」をテーマに、 〜戦後60年を今日振り 今年は「共に御る明日 手国に移し毎年開催。 げる。隔年で会場を相 ていくことを目的に掲

## 核廃絶願い意見交わす

広島 80人参加し日米学生会議



る第五十七回日米学生会

、糸満市内で始まった。

の沖縄での会議が八

国への感情を質問され 和教育について報告。米

中沢啓治さん(そと)=埼玉 られる漫画家で被爆者の はだしのゲン」で知 ほしい」と語りかけた。 役割は」と問われ、野上 は人体実験。米国民に恨 ニシアチブを求めた。 さんは核軍縮に向けたイ が連鎖反応で核兵器を増 みはないが反省してほし やす悪循環の中、米国の た中沢さんは「原爆投下 米国の学生から「各国

交わした日米の大学生 平和や核兵器について意見を

島市出身の野上さんは平 受けた精神面の影響、広 中根教授は長崎被爆者が に基づき、議論した。 中沢さんは被爆体験、

に苦痛を与えた。両国の たちの役割」と述べた。 わだかまりを解くのが私 の政治リーダーが被爆者 ボローさん(三の)は一米国

り、約8人が世界平和に 中に原爆ドームを見学し い、毎年期いており、県 が4日、中区上幟町の広 被爆的年にあわせ、午前 内では4年ぶり。今年は ついて意見交換した。 ルディスカッションがあ さん(66)らを招いたパネ ゲン」の作者、中沢啓治 あった。漫画「はだしの た後、ディスカッション 崩いた。学生からは「日 会議は日米交流を狙

> 波多野綾子さん(23)は 国の若者も同じだと実態 した」と話していた。 「平和を願う気持ちは米 東京大教養学部4年の 「茶谷売

島女学院中・高ホールで は「世界の未来を担う 係について話し合う第57 日米学生会議広島会議 指摘があり、中沢さん 訴えるべきだ」などの もっと世界に核廃絶を 本は被爆体験を生かし、 若者が、核をなくす努力

をしてほしい」と呼び掛

女学院中・高

若者の連帯で核なくそう」

日米の大学生が意見交換

世界平和について意見を交わす日米の大学生 ら二中区上幟町の広島女学院中・高ホールで

毎日新聞、8月5日付

中国新聞、8月5日付

いて意見を交わした。 爆投下や核兵器廃絶につ の話を基に、広島への原 れた。両国の大学生約八 島女学院中・高校で開か が四日、広島市中区の広

上由美子さん(『一)の発表一三年のシーエン・スカー

院で平和学を専攻する断

文教授(ギャン、英国の大学)るかを考えるきっかけに

人が参加し、被爆者ら

師で長崎国際大の中根允 問題を研究する精神科医 県所沢市、被爆者の心の

の伊藤朋子さんへもは

終了後、早稲田大二年

「平和のために何ができ

(国際教育振興会主催)

# 日米学生会議始まる

76人参加 各地巡り沖縄問題学ぶ



(左)と談笑する第57回日米 = 8 日夜、糸満市西崎町のN フォー西崎 牧野浩隆副知事( 学生会議参加者= BCサムシングフ

さまざまな問題を議論す一夜、開かれたレセプショ 日本各地を訪れ二国間の | 七十六人が参加。同日 ンには、牧野浩隆副知事 出席し、学生を激励した。 や西平賀雄糸満市長らが 日本側実行委員長の杉 象徴であるとともに、日 ンド大学―は「沖縄は日 リーさん(三四)=メリーラ あいさつ。米国側実行委 米間に懸案があることを 田直子さん(二0)―国際基 か、十一日午前には名護 和祈念資料館、ひめゆり で、在沖米軍基地や県平 てたい」と決意を語った。 の日米関係のために役立 端的に示す地でもある。 米のパートナーシップの 員長のアシュリー・ニー える第一歩にしたい」と る。沖縄での議論を現 督教大学―は「日米関係 沖縄で学んだことを今後 在、未来の日米関係を考 縄国際大学で開く。 ルディスカッションを沖 代替施設に関連したパネ 後には米軍普天間飛行場 市辺野古を訪問。同日午 にはさまざまな問題があ

琉球新報、8月9日付

## 第1章 第57回日米学生会議概要